#コトコト湖都古都#

大津けいはんタイムス

2010年春
発　行:大津の京阪電車を愛する会
発行日:2010年 4 月 15 日

「大津けいはんタイムス」を手に取って戴きありがとうございます。本誌は大津市内を走る京阪電車沿線の人々との交流と、まちの活性化を目指し「大津の京阪電車を愛する会」の会員自らが作った情報誌です。

明治43年(1910年)、大阪天満橋～京都五条間に開業した京阪電車は今年で100年！それを記念して『大津の京阪電車を愛する会』では、「京阪電車開業100周年記念号」を発行します。

京阪電車 開業100周年記念号

～大津線界隈のハイカラをたずねる～

この春100周年を迎える京阪電車にちなんで、当時流行した「ハイカラ」という言葉をキーワードに見つけてきた、"ハイカラ大津一新しくて古いもの"をご紹介します。

109年の歴史をきざむ 時計・眼鏡のお店

長等商店街にある明治34年(1901年)創業の時計・眼鏡店『村上世今堂』。店名に英語で秒を表す「SECOND」を漢字で当てはめたのは、ハイカラだった初代のアイデアだとか。歌謡曲が流行していた創業当時は、蓄音機、レコードを販売していたこともある。

昭和初期の歌謡曲キャンペーンの写真

先代からのつながりも深く、お客様や店を気にしてか、ときどき91歳のお母さんが顔を出すこともあり、3代目となるご主人もそれを励みに昔からのお客様を大切にしながら店を守られている。

店内にある年代を感じさせる検眼レンズの木製ケースは、眼鏡士の奥さん愛用の道具として現役で活躍中。またドイツ製ユハンスのホールクロック(大時計)もひときわ存在感を漂わせている。残念ながら今は修理中だが、頑丈な木のケースの中で大きな振り子とチェーンが今にも動き出し、時を奏でそうである。

村上世今堂(ムラカミセコンドウ)
三井寺駅下車　徒歩5分
TEL　077-522-3115

女学生の夢を奏でる 楽器のお店

京町2丁目に店を構える『初音屋楽器店』は大正4年(1915年)創業。店の向かい角には司法権の独立を守ったことで有名な大津事件(1891年)の記念碑が建っている。

店内に飾られた昔の立派な看板に、"琴三弦諸楽器"という文字があるように、当時は琴や三味線の販売・修理を主に行っていた。琴は、茶道や華道とならんで高等女学校で正式科目にもなり、嫁入り道具として持参する人も多かったよう。その後、女学生の稽古事にピアノなどの西洋文化が加わり、ピアノを持つことは一種のステイタスとなった。「調律師を上客として迎え、家族全員で見守っていたような時代があったそうです」と、調律師でもある、同店3代目の奥さん。

ピアノが一般に普及するのは、戦後、各学校に設置されてから。黒いアップライト型ピアノを見ると、学校の音楽会などを思い出す人も多いのでは?

初音屋楽器店
浜大津駅下車　徒歩5分
TEL 077-524-3255

石山を見守ってきた写真館

昭和初期の店頭風景

石山商店街の真ん中、店先の写真機が道行く人の目を引く『駒井写真館』は、昭和初期の東レの操業以来、この界隈を見守ってきた。繊維業界が隆盛だった当時は、田舎から仕事に出てきた若者が、写真を親に送るといった風潮もあり、また「洋服を新調した」「流行の髪型にした」といっては写真を撮るのが"ハイカラ"でもあった。

現在のご主人は3代目。2代目を守られたお母様は撮影もこなし、正月などは晴れ着客の対応に追われ、寝る間もないほどだったとか。その頃の写真からは、どれも女性カメラマンらしい、優しい視線が感じられる。

店はかつて、1階は滋賀大生の憩いの場、スタジオのある2階はダンスも楽しめるサロンと、地域の社交場にもなっていた。今も2階にある無垢材の古い重厚な床からは、当時のモダンな若者の足音が聞こえてきそうである。

駒井写真館
京阪石山駅下車　徒歩5分
TEL　077-537-3122

坂本駅の100年レール

坂本駅ホームに展示されている1本のレール。それが京阪電車開業時に京阪本線で使用されていた、100年前のレールです。線路としての役割を終えた後、しばらくは大谷駅ホーム屋根の支柱として使われていましたが、駅改修に伴い一部が坂本駅へとやってきました。

耳を澄ませば聞こえてきそうな、100年前の「ガタンゴトン」を感じてみてはいかがでしょうか。

途中下車の小さな旅

幻の駅 ～札ノ辻を訪ねて～

往時の賑わいに思いを馳せる…

大正元年から大正14年まで、京都と大津
ノ辻駅』。今はわずかに道標が残されるた
が繁栄する礎となった駅だ。そんな“幻の

京津線浜大津駅を出て、国道161号の併用路面の坂を上栄町駅に向かって走る途中、京町一丁目交差点の辺りに、『札ノ辻駅』はあった。

【札ノ辻駅の成り立ち】

明治13年に国が敷設した京都―大津間の路線は京都駅が街の中心部から離れていたこともあり、明治43年に民営の京津電気軌道株式会社が設立、大正元年（1912年）8月15日には旧東海道に沿って京都三条大橋駅から終点の札ノ辻駅までの路線が開通した。京阪電鉄刊行の「鉄路五十年」によると、開通日はちょうど盂蘭盆（うらぼん）にあたり、多くの商家や農家の人たちは仕事を休んで琵琶湖や大津市内の見物、京都の大文字見物に出かけたため、電車は終日満員の状態であったという。京津線用に製造された新車両は窓飾りを付けたモダンな木造電気客車で、定員は60名。当時、京都三条大橋―札ノ辻間は14駅、所要時間は約30分で往復運賃は28銭（一区間2銭）。電車一本で京都の繁華街まで直結したことは便利さの面からも、画期的だったが、当時の小学校教員の初任給が10～13円ということからすると、決して安いものではなかったようだ（※1円は100銭）。

現在の札の辻付近

【札ノ辻駅の様子】

札の辻で明治29年創業和菓子の「鶴里堂」3代目の栢口（かやぐち）文雄さん（78）を訪ねると、「幼少（昭和10年）の頃は札ノ辻駅が遊び場で、牛も通っていた。駅の乗り場は道路から一段高くなっていて、今は白洋舎となっている所が待合所。中には売店があり、酢こんぶやキャラメルが並んでいた」と話してくれた。また、父親の代から75年あまり続くヘアサロン「ハマカワ」を営む深田アツ子さんからは、昭和20年代は映画館もあり、町で一番賑やかな繁華街だったこと、琵琶湖がよく見えたことなど、今とは違う街の様子を聞くことができた。お二人の話から当時最新の乗り物だった電車が大津の古い家並みをくぐり抜けていく風景を彷彿とさせる。

【札ノ辻駅が廃止されるまで】

札ノ辻駅前には明治31年に市制となった大津市役所があったが、その庁舎の前身は日新学校の校舎で、和洋折衷の洒落た外観が市の中心を象徴していた。庁舎は大正5年に浜大津寄りに移転するが、跡地には三階建ての展望台を備えたカフェが登場するなど、流行の最先端が集まる場所として賑わった。「大津市史」によると札ノ辻駅止まりの軌道を浜大津まで延長する計画は当初からあったが、この間は“突き抜け”と呼ばれる細い道だったため拡幅の用地買収に時間がかかり、大正14年5月5日にようやく延長開業、琵琶湖遊覧につながる環境が整っていった。その後、札ノ辻駅は浜大津と上栄町両駅と至近距離にあることから、戦時中の昭和20年
日で廃止となっ
幻の駅「札ノ
いや喧噪が聞こ

<札ノ辻駅

“札の辻”とは
てがき）などを記
ノ辻駅があった場
岐点であり、宿場
芸員、木津勝さん
町の中心地を示
という。

坂本 ― 松ノ馬場 ― 穴太 ― 滋賀里 ― 南滋賀 ― 近江神宮前 ― 皇子山 ― 漣（さざなみ） ― 別所 ― 三井寺 ― 川口（かわぐち） ― 浜大津 ― 大橋堀

札ノ辻（ふだのつじ） ― 上栄町 ― 上関寺（かみせきでら） ― 大谷 ― 追分 ― 緑ヶ丘運動場前（みどりがおかうんどうじょうまえ） ― 四宮 ― 京阪山科 ― 御陵

昔あった駅

街あるき情報

『旧大津公会堂』4月下旬誕生！

京阪浜大津駅の石山寄り、線路沿いのレトロな建物、大津市社会教育会館が「旧大津公会堂」という名前でリニューアルオープン！

スクラッチタイル

細かくひっかいたような表面のスクラッチタイルの採用と水平線を強調した意匠が特徴的

2010年4月下旬、大津市社会教育会館が地域のコミュニティースポットとして生まれ変わります。旧帝国ホテル設計で有名なフランク・ロイド・ライトの影響を受けた「ライト式」建築の外観や雰囲気はそのまま。地下と1階はレストラン、2階は会議室や多目的ホール、3階は音響設備を整えたホールと、市民の交流の場として幅広く利用できます。もちろんバリアフリー対策も施され、耐震補強もバッチリです！

オープン予定店舗は、1階「モダン・ミール（近江牛、肉料理専門）」、「Ristorante LAGO：リストランテ・ラーゴ（本格イタリアン）」、地下1階「CANTINETTA GMT：カンティネッタ ジーエムティー（地中海料理とワイン）」、「大津グリル（和食、日本酒）」の4店。いずれも食材にこだわった店ばかり！

出店テナントイメージ

ところで、この建物の歴史をご存じでしょうか？昭和9年（1934年）に大津商工会議所と大津市立図書館を併設した「大津公会堂」として建設され、戦後は「大津公民館」、昭和60年からは現在の大津市社会教育会館として、名称や用途をさまざまに変えながら、永年にわたり市民の交流の場として親しまれてきました。また近代化遺産としても歴史的に価値が高いと評価され、保存を願う声も多くありました。中心市街地の重要な位置にあるこの建物を、地域の人々や来訪者が交流できる拠点として活用しようと生まれ変わった「旧大津公会堂」、是非訪れてみてください。

■ 所 在 地：大津市浜大津一丁目4－1
■ 問合せ先：(株)まちづくり大津　TEL077―523－5010

モダン・ミール	地産の食材を大切に、滋賀の特産品である近江牛をベースとした肉料理の専門店
Ristorante LAGO（リストランテ　ラーゴ）	地産の食材を主に、肉類は炭火、野菜類は素材の味を生かしたメニューの本格イタリアン
CANTINETTA GMT（カンティネッタ　ジーエムティー）	地中海料理とワイン、紅茶。他に焼き菓子などのドルチェを提供。浜の隠れ家
大津グリル	素材を生かした創作和洋食の店。煮込み料理やおばんざい、地元の日本酒などを提供

を結ぶ京津電車の最終駅だった『札
だけだが、大正から昭和初期に大津
駅・札ノ辻”の歴史をたどってみた。

大正期の札ノ辻駅

に休止され、その後復活することなく昭和21年10月1
た。
辻」を訪ね、その歴史に触れたことで改めて往時の賑わ
えてくるようだった。

ミニ情報＞

江戸時代に法度（はっと）や掟書き（おき
した高札を掲げたことに由来している。札
所は東海道と北国海道が交わる交通の分
町としても栄えた。大津市歴史博物館の学
によると、大正8年の道路法により大津の
すものとして道路元標がここに設置された

京阪沿線でがんばる人たち

近江神宮で
十二単着付け中の
西野美也子さん

長等神社の近くにある大正14年創業の『江戸家美粧院』では、当時柴屋町(※)に200人ほどいた芸妓さんのうちの100人くらいの髪を、日本髪や束髪（洋髪）に結っていました。日本髪を担当していたのは、創業者のちゑ先生。“日本初”という東京の美容師養成学校を卒業したことから、自らの店を『江戸家美粧院』と名づけ、生涯美容師として“くし”を持たれたそうです。

現オーナーの美也子さんは「皇子山にあった進駐軍の将校さんの家に呼ばれて、奥さんの髪もさせてもらいましたよ」と話して下さいました。「お店に来た17歳の時に、3日で帰ってくるやろうと父親から思われていたんですけど、仕事がおもしろくて…。義母とウマが合ったんですよ」と、当時を懐かしまれます。

日本髪

今年76歳の美也子さんは、お店での美容や着付け、近江神宮での花嫁仕度などのほか、県の美容組合の役員の仕事、さまざまな研究会や講習会、ショーと、関西だけでなく東京でも活躍。「美也子さんでなければ」と県内各地、遠くは九州からも店に来てくれるお馴染みさんを大切にしながらも、東京や大阪に出向き、常に最新のモードを研究し、若い美容師さんたちに伝えていらっしゃいます。「モデルさんと、ショーのせり上がる舞台に立っていた時は、ドキドキしました」、「尊敬する（美容会の重鎮）堀部美行先生とご一緒して、資料館に展示するのに、京都でかんざしなんか収集したのも楽しかったですね」と語って下さる美也子さん。さすが、綺麗に整ったヘアスタイル、控えめに美しく手入れされた爪など、自身の美粧にも余念がありません。

束髪

「いつも、色々経験させてもらっています」「若い子と付き合わんとあきませんね。それも、大津だけやのうて」という言葉が印象に残りました。新しい目標をもって進み続ける美也子さんを、スタッフの方々が支えています。

※柴屋町（しばえまち/しばやまち）
大津の中心地で、昔花街だったところ。現在も、芸妓さんが何人か残っている。

「江戸家美粧院」　西野美也子さん
TEL 077−524−2851

おおはしぼり
紺屋関（こんやがせき）
島ノ関
石場
京阪膳所
錦
膳所本町
中ノ庄
瓦ヶ浜
粟津
京阪石山
唐橋前
石山寺

沿線の学校へ行こう

最高レベルの時計技術者を育成
「近江神宮附属 近江時計眼鏡宝飾専門学校」

100周年記念号のテーマは「時間(とき)」。そこで近江神宮の時計博物館附属研究教育機関として創立された「近江時計眼鏡宝飾専門学校」を訪ね、お話を伺いました。

『時計のプロフェッショナルを育成』

日本の時刻制度発祥の地に建てられた、近江神宮の時計博物館。その附属研究機関として昭和44年に「近江時計眼鏡宝飾専門学校」が創立されました。3年制で最高レベルの時計技術者育成を目指す「時計科」などがあり、プロフェッショナルを育成する環境が整っています。

『時計に魅せられた生徒たちのキャリアもさまざま』

各教室で顕微鏡をのぞきながら黙々と細かい作業に取り組む白衣の学生さんたち。どんな気持ちで時計作りを勉強しているのか、お話を伺いました。昔から機械いじりが好きだったという大倉祐太さん（18歳）は、時計の歯車は小さくて動きが複雑なのに5,6個だけで時間を刻めることに魅力を感じるそう。

杉本保之さん（34歳）は元予備校の講師。「祖父の持っていた懐中時計を自分で直したい」という想いと、専門とする比較英文学を活かして海外の時計技術書を翻訳したいという希望があるそうです。落合民生さん（38歳）は、元は太秦でテレビなどの撮影をしていたというキャリアの持ち主。テレビでこの学校を知り、近くにこんなところがあった!と入学したそうです。皆さん、時計作りにかける情熱は一流で「道具は自分たちで手作りする」「時計が壊れているとかわいそう」など既に気持ちは職人級。江戸時代から伝わる「不定時法」で刻まれる「和時計」に興味を持っている人も多いようです。時計といえば「正確さを求めるもの」という認識でいましたが、人間の体に沿った時間のあり方に惹かれる学生さんたちが多いことに感嘆しました。

和時計
（近江神宮時計博物館蔵）

『人の技が求められる』

博物館内には日本で初めて正確な日本地図を作成した伊能忠敬も用いたといわれる、測量と時計を組み合わせた「垂揺球儀（すいようきゅうぎ）」があります。なんとこれは日本で現存する4台の中で唯一実際に動かせるものだそう。「私どもが後継者を育てつつ管理しています」と語る東條副校長。私たちの身近にプロフェッショナルをじっくりと育てる、まさに「時間がたつのを忘れる」学校がありました。

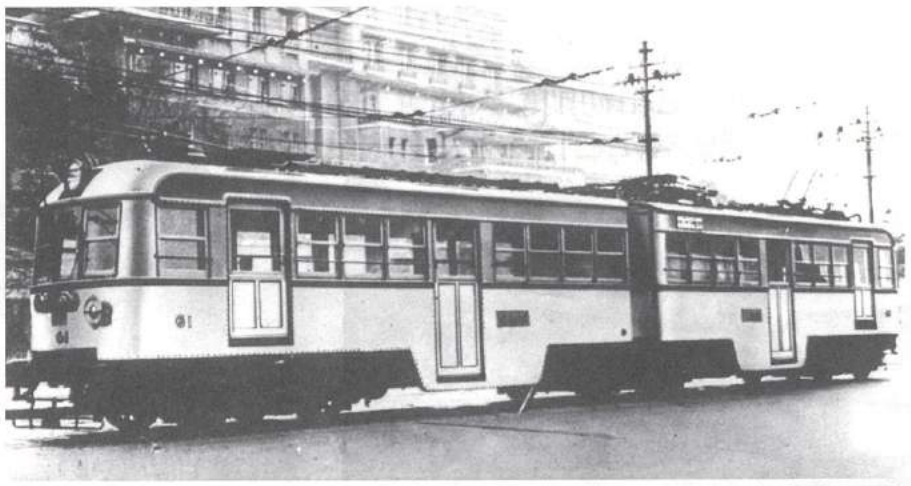
○ちょっと豆知識○

- わが国の、時間制度は、今から1,340年の昔、天智天皇の御代に大津都に漏刻（ろうこく）を設置され時間を知らされた事に始まる。漏刻とは水時計の事であり日本書紀には、鐘鼓を鳴らして時を知らされたもの。近江神宮時計博物館は、日本の時刻制度発祥の地に設けられた、古今の時計を常設展示する時計博物館。
- 「定時法」（太陽暦）は太陽の動きに合わせて1年の長さを365日とし、実際の太陽の周期との誤差を閏年で調整する方法。1日は24時間に等分され、時間は一定の間隔で計られる。それに対して「不定時法」とは、日のあるうちが昼で、暮れれば夜。昼夜それぞれ6等分して一刻（いっとき）として時間を計る方法。当然夏と冬では一刻の長さが異なる。

大津と大阪を結んだレトロ電車

びわこ号

昭和初期から中期まで、浜大津と大阪天満橋を直通で運転していた電車があったのをご存知ですか。特別な技術と独特の外観を施し、人々の夢と期待を運んだ「びわこ号」についてご紹介します。



蹴上を走る「びわこ号」

びわこ号に乗り込むスキー客

昭和9年に造られた電車「びわこ号」は、全部で3編成製造され、昭和45年まで運転されていました。

京阪電車は、大正14年2月に京津電気軌道（現在の京津線）、昭和4年4月に琵琶湖鉄道汽船（現在の石山坂本線、琵琶湖汽船）を傘下に。その頃、琵琶湖遊覧は人気の観光スポットで、大阪などから多くの観光客が訪れていました。そのため大阪-浜大津を乗り換えなしで直通運転することが望まれていたのです。

しかし、たくさんのお客が乗ることができ高速鉄道の性格を持つ京阪線と、急な勾配や急カーブ、路面電車部分もある京津線と、全く性格の異なる路線を直通運転できる車両の開発には、多くの技術的課題が山積みしていました。そこで生み出されたのが「びわこ号」です。「びわこ号」は日本で初めての連接車（注1）で、パンタグラフとポールの2種類の集電装置を屋根に設け、乗降扉も高さの違うホームに対応できるよう別々に設置されました。外観もいち早く流線型車体を取り入れ、当時の技術の英知を集結したものでありました。

スキー船ポスター

昭和9年4月2日運転開始当時は、浜大津一天満橋間所要時間72分。その間はほぼノンストップで、島めぐり航路、冬季のスキー船（注2）などの連絡便として、琵琶湖と京都・大阪をつなぐ役割を果たしていました。

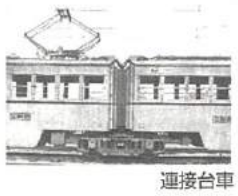
現存するびわこ号運転台

戦後は京津線を中心に運転されており、大津線沿線や湖東・湖西方面からの「ひらかた大菊人形」観覧や年末年始の沿線社寺への参詣の時など、臨時で京阪線に直通運転を行っていました。

現存するびわこ号車内

大津と京都・大阪は、古から琵琶湖・淀川の水運で繋がりを持っていましたが、その淀川沿いに明治45年4月に開業した京阪電車。今年で100年になります。

（注1）連接車
2車体の間に1つ台車を設けた形式の車両をいう。急カーブの通過が容易でかつ高速運転も可能である。



連接台車

（注2）スキー船
深夜12時に浜大津港を出航、京阪丸などの大型スキー船の暖かい船内でゆったりと過ごし午前4時に海津港着。連絡バスでスキー場につく頃、夜が明ける。最盛期には一日2000人を突破した。その後、貸切観光バスに押され昭和37年1月廃止となった。
このスキー船に連絡するよう、午後10時に大阪天満橋を出発、浜大津に11時9分に到着する「びわこ号」が運行されていた。

〈写真協力：京阪電車、琵琶湖汽船〉

京阪電車の思い出話

100周年記念号発刊にあたり「大津の京阪電車を愛する会」会員の皆さまに情報提供をお願いしました。お寄せ頂いた思い出の中からいくつかご紹介します。

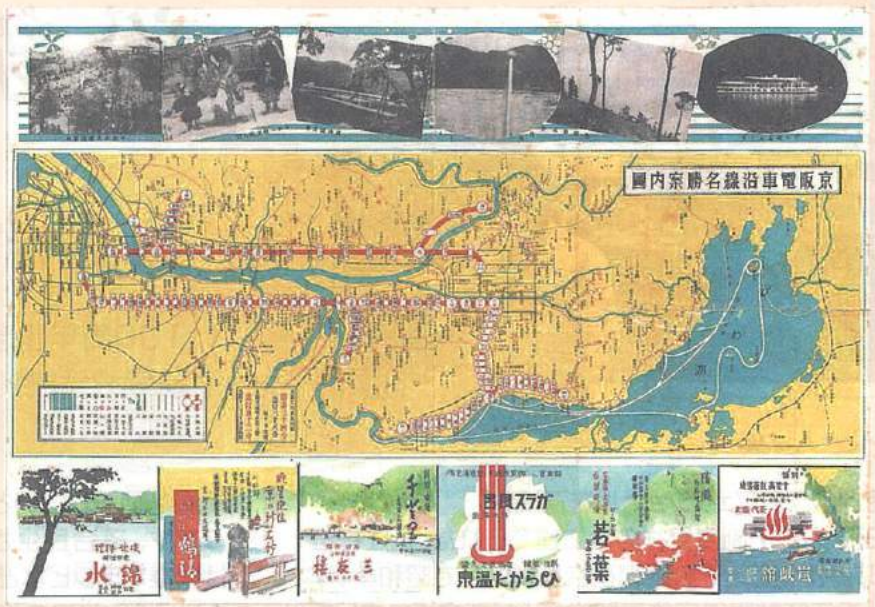
〈エピソード〉

昭和6年9月頃まで、石坂線は「坂本行き」と表示されていても実際は三井寺で降り、そこから坂本まではボギー車に乗り換えて行っていた。
（戸田耕吉さん　85歳）

昭和24年頃、四宮の車庫が火事で焼けた。当時は阪急電車と合併していたため（「京阪神急行株式会社」）阪急本線の車庫に眠っていた車両をこちらへ回したとのこと。阪急とは違い駅が低いので、乗車するために「高床」という台が各停留所に置いてあった。その場所に「とりすがり乗車は高床台に引っかかりますからご注意下さい」という札があった。（戸田さん）

終戦直後の電車の本数が少なかったときは、ドアを閉めるどころでなく「ぶら下がり乗車」が多かった。走行中落ちた人もいて、特に「京阪膳所と石場の間」の下(くだ)りの坂は自然とスピードが出て走るので怖かった。（戸田さん）

女子学生だった当時、まだ路面を走っていた京津線が高床ホームで間違ってステップを出して立ち往生してしまい、乗客たちみんなで車体を押した。（大石橋昌子さん　35歳）



<図>谷本武弘さん（34歳）からご提供いただいた「昭和初期の京阪沿線地図」

大津の京阪電車を愛する会　会員募集中！

「大津の京阪電車を愛する会」は貴重な公共交通機関である京阪大津線の利用促進を図ることを目的として、平成17年11月に設立された市民団体です。電車内や京阪沿線で行う各種イベントを通して京阪電車にふれあう機会をつくる活動を行っています。皆さんも本会と一緒に京阪大津線を支えていきませんか？

大津の京阪電車を愛する会
http://www10.ocn.ne.jp/~ok-love

大津の京阪電車を愛する会　検索

〒520-0047　滋賀県大津市浜大津四丁目1−1　「明日都浜大津」1階　市民活動センター内
TEL／FAX:077-523-6238（事務局は、土曜日の午後1時〜4時に開いています）

〒520-8575 滋賀県大津市御陵町3−1　大津市建設部交通・建設監理課 TEL:077-528-2736　FAX:077-521-0427

編集後記

「時間」は短くも長くも感じるものです。私の場合楽しい時は短く感じて、そうでない時は長く感じます。

おかげさまで、大津けいはんタイムスは2度目の発行ができました。出来た新聞を見て振り返ると…意外にも製作に日数が掛かっていた事に今さらながら気が付きました。

この新聞を読み終わった皆様は時間をどのように感じていただいたのでしょうか。短い時間だったと感じていただけると光栄です。

（編集長・本田 祐基）